

ムカシの競馬を読む

平成18年・中山競馬場
スプリンターズステークス
優勝馬：
テイクオーバーターゲット
© JRA



第133回 10年・20年・30年前の10月



ムカシの競馬を読む



須田鷹雄 すだたかお

1970年東京生まれ。競馬ライター。サラブレッド、大阪日刊スポーツなど各種媒体に寄稿中。

いまから10年前、平成18年の10月というと、スプリンターズSをテイクオーバーターゲットが制した月。管理するジョセフ・ジャニラック師は馬主も兼ねており、ごく少頭数を管理しているのみといふことで話題となつた。オーストラリアには多い兼業調教師で、「本職」がタクシードライバーであったこともよく知られている。

そしてこのスプリンターズSは、この時点での新記録が生まれたレースでもあつた。10日2日付のスポーツは、G1ウイナーの底力はダテではなかつた。10番人気のメイショウボーラーが好位から粘り込んで、2着を確保。3連単263万馬券の一翼を担つた

との書き出しで紹介しているが、この263万7570円という馬券は当時のG1レースにおける最高配当記録。平成17年天皇賞春で出した193万9420円の記録を更に

新した。

この翌年、ピンクカメオのNHKマイルCで973万円という馬券が出て、平成20年の秋華賞では1098万とついに大台に。そして昨年のヴィクトリーマイルで2070万円と、10年弱で文字通りケタはずれの記録が更新されている。枠連までの時代を考えると、馬券のインフレ具合は尋常なものではなくなってきた。

この平成18年10月はデイーピイ

ンパクトの凱旋門賞失格など良くないニュースが多かつたのだが、こんな記事がファンを心配させた月でもあつた。6月付の夕刊フジから。

「東京・新宿の場外馬券売り場『ウインズ新宿』が入るビルが競売にかけられていることが5日、分かった。テナントを貸すオーナー側は収益などを差し押さえられ、『建物の管理が果たせない状態』と物件を手放したいと考え。新しい所有者の意向次第では閉鎖という最悪の

事態の可能性すらあり、JRAは対応に苦慮している」

結局ビルは売却されたものの、営業は継続可能となつた。しかし、平成23年の東日本大震災で壁面が破損するなどの事態が発生。立て替え工事を行うために3年ほど休業したのは皆さんご存知の通りである。

伝え聞くところでは同じ新宿の別な場所に移転先を模索したようだが、周辺の反対などもあって実現しなかつた。都心では、古い話だけがかつて池袋にあった場外が閉鎖もあつた。6月付の夕刊フジから。

「東京・新宿の場外馬券売り場『ウインズ新宿』が入るビルが競売にかけられていることが5日、分かった。テナントを貸すオーナー側は収益などを差し押さえられ、『建物の管理が果たせない状態』と物件を手放したいと考え。新しい所有者の意向次第では閉鎖という最悪の

たのはめでたいことである。

いまから20年前、平成8年の10月というとこんな月。10月11日付の中日スポーツから引用してみよう。

「田原が熱唱、ライブでファン魅了

たのはめでたいことである。

JRAは9日、8日の石川県営金

沢競馬場で行われた中央交流レ

ース『ケヤキ賞』でヤマノプロテクタ

ーに騎乗しなかつた塩村克巳騎手

に対し、10月12日から11月10日まで実効10日間の騎乗停止処分を

う人気ジョッキーの田原成貴が10日、東京臨海副都心有明南地区で行われた『JRAフェスティバル96』のオープニングイベントとして野外ライブを開催。約2000人

のファンを前に、ムチをマイクに持ち

替えロック歌手よろしく7曲を歌い

まくつた

」

JRAはこの翌年が売り上げピークの4兆円を迎えるタイミング。金は余りまくつていたし、業界は浮かれまくつていて。振り返ると個人の至りのようなものを感じる。

一方、こちらは浮かれていたので

がかつて池袋にあった場外が閉鎖となつた(施設所有者の西武から返却を求められ、移転先が見つからなかつた)こともあるので、どんな形にせよ新宿に馬券売り場が残ったのはめでたいことである。

いまから20年前、平成8年の10月というとこんな月。10月11日付の中日スポーツから引用してみよう。

「田原が熱唱、ライブでファン魅了

たのはめでたいことである。

JRAは9日、8日の石川県営金

沢競馬場で行われた中央交流レ

ース『ケヤキ賞』でヤマノプロテクタ

ーに騎乗しなかつた塩村克巳騎手

に対し、10月12日から11月10日まで実効10日間の騎乗停止処分を

たのはめでたいことである。

JRAは9日、8日の石川県営金

沢競馬場で行われた中央交流レ

ース『ケヤキ賞』でヤマノプロテクタ

ーに騎乗しなかつた塩